

平成29年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立雀宮中学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や生徒の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって生徒を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成29年度「全国学力・学習状況調査」における本校生徒の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

平成29年4月18日(火)

3 調査対象

中学校 第3学年(国語A・B, 数学A・B, 生徒質問紙)

4 本校の参加状況

① 国語A	167人	国語B	166人
② 数学A	166人	数学B	166人

5 留意事項

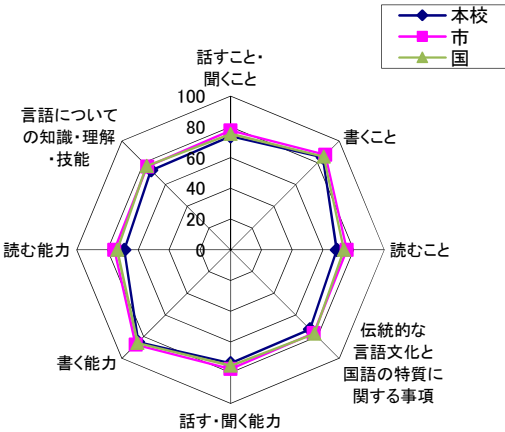
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、数学の2教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、生徒が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立雀宮中学校第3学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

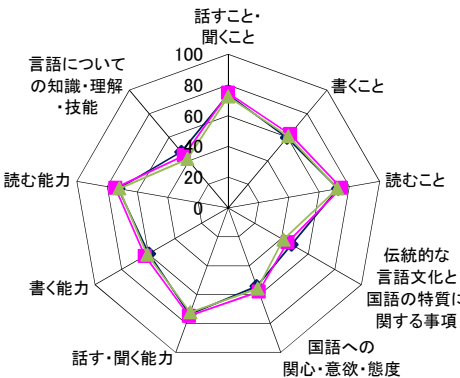
【国語A】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと・聞くこと	73.8	77.6	75.4
	書くこと	85.0	87.3	85.7
	読むこと	69.1	75.6	73.8
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	73.1	76.6	77.2
観点	国語への関心・意欲・態度			
	話す・聞く能力	73.8	77.6	75.4
	書く能力	85.0	87.3	85.7
	読む能力	69.1	75.6	73.8
	言語についての知識・理解・技能	73.1	76.6	77.2



【国語B】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと・聞くこと	73.7	74.8	72.4
	書くこと	59.6	62.6	60.8
	読むこと	72.6	74.6	72.1
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	47.6	44.7	41.4
観点	国語への関心・意欲・態度	54.2	58.0	55.9
	話す・聞く能力	73.7	74.8	72.4
	書く能力	59.6	62.6	60.8
	読む能力	72.6	74.6	72.1
	言語についての知識・理解・技能	47.6	44.7	41.4



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

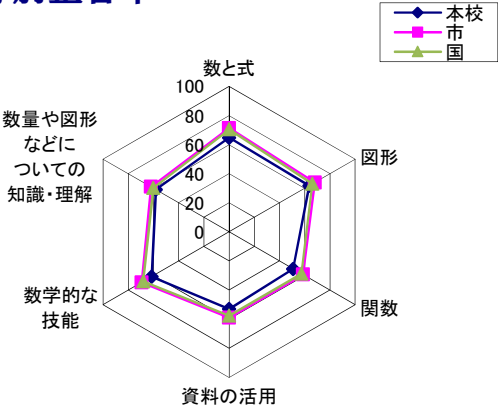
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	Aの平均正答率は全国より2ポイント、市より4ポイント下回っている。 ○ 目的に応じて資料を効果的に活用して話すことや論理的な構成や展開などに注意して聞くことができる。 ● 相手にわかりやすい語句を選んで話すことや相手の反応を踏まえながら事実や事柄が相手にわかりやすく伝わるように工夫して話すことに課題がある。	・今後も目的に応じて資料を効果的に活用して話すように、多くの情報を集め、論理的に自分の考えを伝えられるように指導する。また、相手の考えを注意して聞く機会を増やすために、自分の考えを発表する時間を増やし人の話を聞くときのポイントを伝える。 ・発表する際には相手に伝わるように、相手の反応や声の大きさなどを工夫する指導を充実させる。
書くこと	Aの平均正答率は全国とほぼ同じである。Bの平均正答率は全国より1ポイント下回っている。 ○ 文章の構成を工夫してわかりやすく書くことや目的の意図に応じて材料を集め、整理して自分の考えをまとめることができる。 ● 書いた文章を読み返し、語句の使い方を工夫して書くことや書いた文章についての助言を基に自分の表現を見直すことに課題がある。	・今後も文章の構成を工夫してわかりやすく書くことや目的の意図に応じて材料を集め、整理して自分の考えを書く指導を続ける。 ・一度書いた文章を読み返し、推敲する習慣をつけさせ、文章についての助言を基に工夫して、相手に伝わりやすい文章を書く指導を充実させる。
読むこと	Aでは全国平均正答率より4.7ポイント下回っている。 Bでは全国平均正答率より6.2ポイント下回っている。 ○ 文章の要旨を捉えることができる。 ● 文章の構成や展開、表現の特徴について自分の考えを持つことや登場人物の言動の意味を考え、内容を理解することに課題がある。	・今後も文章の要旨を読み取る指導を続けていく。 ・文章の接続詞などに注意させて、構成や表現の特徴についてより深く読み取るような授業の充実を図る。 ・登場人物の言動にはどのような意味があるのか一つの言葉に着目させ、内容を理解する授業を充実する。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	Aでは全国平均正答率より4.1ポイント下回っている。 Bでは全国平均正答率より6.2ポイント上回っている。 ○ 比喩を用いた表現に着目し感じたことや考えを書くこと、表現の仕方について捉え自分の考えを書くこと、品詞の助詞、の以上3点についてはよく理解している。 ● 話し言葉と書き言葉の区別や漢字を書くことに課題がある。	・今後も漢字テストを続けるとともに、学んだ語句を繰り返し学習することで、文脈に即して漢字を書くことや読むことができるような指導の工夫をする。 ・古典には様々な種類の作品があることを再度指導し、作品の内容を理解させる。

宇都宮市立雀宮中学校第3学年【数学】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

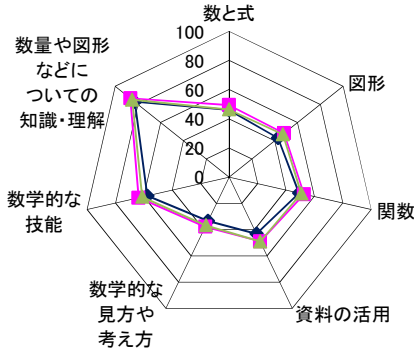
【数学A】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と式	64.8	71.4	70.4
	図形	63.6	67.9	66.0
	関数	50.8	58.6	57.4
	資料の活用	53.0	58.9	57.6
観点	数学への関心・意欲・態度			
	数学的な見方や考え方			
	数学的な技能	61.4	69.3	68.2
	数量や図形などについての知識・理解	58.2	61.9	60.2



【数学B】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と式	46.0	49.4	46.3
	図形	43.0	48.3	47.1
	関数	49.2	52.7	50.8
	資料の活用	43.2	49.0	49.1
観点	数学への関心・意欲・態度			
	数学的な見方や考え方	33.4	37.8	36.8
	数学的な技能	57.6	63.7	61.2
	数量や図形などについての知識・理解	82.8	86.7	85.1



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	Aの平均正答率は、全国平均と比べ5.6ポイント下回っている。Bは全国平均とほぼ同じである。 ○ 問題場面を把握し、事象を数学的に表現する問題では、正答率が全国を上回っている。 ● ほとんどの問題で正答率が全国平均を下回っている。事象と式の対応を捉え理由を説明する問題では、無回答率が約25%である。	・計算の仕方を正しく理解し、解き方が定着するよう、教科書やワークの問題を繰り返し行うよう指導する。 ・計算テストをこまめに実施し、生徒自身が自分の定着度を確認する機会を設ける。
図形	平均正答率は、Aでは全国を2.4ポイント、Bでは4.1ポイント下回っている。 ○ 作図の方法や、三角形の合同条件、内角の和に関する問題では、正答率が全国を上回っており、知識は身につけている。 ● 扇形の弧の長さを求める問題では、正答率が全国を10ポイント以上も下回り、大きな課題である。	・与えられた辺の長さや角の大きさなど、条件を必ず図にかき入れ、図形を把握しやすい状態で考える習慣づけを行う。 ・扇形と円の関連性を押さえ、弧の長さ・中心角・面積の求め方を定着させる。
関数	Aの平均正答率は、全国を6.6ポイント下回っている。Bでは全国平均とほぼ同じである。 ○ 与えられた表やグラフから、必要な情報を読み取る問題では、正答率が全国を上回っている。 ● 表と比例定数・変化の割合との関連、式とグラフの関連を読み取る問題では、正答率が全国を約10ポイント下回っている。	・比例・反比例・1次関数などそれぞれの関数の特徴を、式、表、グラフでしっかりと押さえさせる。 ・授業において、式、表、グラフの三者の相関の重要性を理解させるとともに、その関係を生徒に意識させるよう指導していく。
資料の活用	平均正答率は、全国平均と比べAでは4.6ポイント、Bでは5.9ポイント下回っている。 ○ 範囲を求める問題では、正答率が全国を上回っている。 ● 度数分布表から相対度数を求める問題では、正答率が全国を10ポイント以上下回り、無回答率も20%以上と、大きな課題である。	・資料の活用では、基本的な用語の意味を確実に理解させる。 ・資料の活用、確率は、学年が進級してからも復習を取り入れ、内容が確実に定着するよう指導していく。

宇都宮市立雀宮中学校 第3学年 生徒質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○学校生活について、「学校に行くのは楽しい。」と回答した生徒が、県より6.2、全国より11.2ポイント高い。友達に会うのは楽しいと回答した生徒も全国より4ポイント高い。学年の欠席率が低いことから学校の居心地の良さを感じている生徒が多いことが伺える。今後も生徒への細やかな目配りを継続し、指導していきたい。

○学校生活について、「先生はあなたの良いところを認めている。」と回答した生徒が、県から7.1ポイント、全国より15.2ポイント高い。また、「先生は授業やテストで間違えたところや理解していないところを分かるまで教えてくれる。」と回答した生徒は、県より6.3ポイント、全国より11.4ポイント高い。今後も生徒との信頼関係を大切にしながら、学校生活全般の指導を行っていききたい。

○「人が困っているときは、進んで助けている。」と回答した生徒が全国より10.6ポイント高い。また「人の役に立つ人間になりたいと思う。」と回答した生徒も全国より6.4ポイント高い。また、いじめをいけないことと意識している生徒も80%を超えており、全国より8.6ポイント高いことから本校の生徒の心優しさを感じられる。道徳をはじめ学校活動全般を通し、この心を大切に育んでいきたい。

○「家の人と将来のことについて話をする。」という肯定的回答をした生徒は70%を超えており、県・全国と比較しても突出している。2年次より、保護者会において、学校行事を通して親子の会話をお願いしてきたところである。今後も進路決定に向けて家庭でよく話し合うよう呼び掛けていきたい。

○「地域社会ボランティア活動に参加したことがある。」と回答した生徒は80%を超えており、県・全国から見ても突出している。本校では、地域教育担当が地域と連携を取ってボランティア活動を計画し、生徒が参加し易い環境が整えられているためと考えられる。今後も地域のボランティアへの参加を呼び掛けていきたい。

○「1,2年の時に受けた授業の内容で目標が示された。」と肯定的に回答した生徒は、95%を超えている。また、「学習内容を振り返る活動をよく行っていた。」と肯定的に回答した生徒も76.6%で全国より11.1%高い。本校で学習指導主任が中心となり、取り組んできたことが定着してきたと思われる。今後も継続して取り組みたい。

●生活習慣については、「毎朝朝食を食べてくる。」と回答した生徒がほぼ90%、就寝の時間が定着していない生徒が28%であるため、受験期における睡眠と食事の重要性について、食育の指導を通して理解を深めさせたい。

●家庭での学習時間は、平均で1～2時間の生徒が最も多く、約43%を占めている。1時間未満の生徒は31%もいる。休日においては、全体的に学習時間が減少している。家庭学習時間に関して肯定的回答の割合がそれぞれ全国平均を下回っていることから家庭学習で何をどのように取り組むか、具体的な指導が必要である。本校の取り組みである家庭学習ノートを活用しながら、指導していきたい。

●数学の学習について将来役に立つと思いつながりながらも、公式や決まりを理解しようしたり、解き方や考え方が分かるようにノートに書いたりしていると肯定的に回答した生徒の割合が、県・全国に比べて低い。小学校算数からの基礎学力の定着に課題があることが危惧されており、数学科では、計算力テストを全校体制で取り組むなど、対策を練っている。

●平日、ゲームをする時間が2時間以上と回答した生徒は全体の4割、また2時間以上スマートフォンを使用している生徒は3割を超えている。家の人とゲームをする時間などのルールを決めていると肯定的に回答した生徒は3割を切っている。使い方について、保護者会や学年通信を通して家庭の理解と協力を得ながら望ましい生活の状態に改善していく呼びかけを継続していきたい。

宇都宮市立雀宮中学校（第3学年）
学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
振り返り活動と連携させた家庭学習ノート学習	毎日1ページ以上自主学習をする「家庭学習ノート」に取り組ませている。その日の授業の振り返りまたは復習の方法を具体的に指導し、どの教科について何を復習として取り組むのかを各自決定して、目的をもって行うよう、全職員で共通理解をして取り組ませる。	「家で宿題をしていますか。」の質問に肯定的な回答をしている割合は91.2%で、全国・県ともに上回っているが、「家で自分で計画を立てて勉強をしていますか。」の質問に肯定的に回答した割合は53.2%で、県を3.2ポイント下回っている。
自分の考えをまとめ、記述する指導の充実	○正答率の低かった問題を中心に、教科部会で誤答分析を行う。 ○授業の中で、自分の考えを書く活動や学びあいの活動の中で言葉で人に伝える説明や話し合いなどの活動を取り入れる指導方法を研究するために、授業研究会を行う。 ○授業中の学習活動で書く活動を意識的に設けたり、振り返りの場面で、文章表記させるなど、教科部会で共通理解を図り、実践していく。	「生徒の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか。」の質問に肯定的な回答をしている割合は69. %で、県とは同等であるが全国を4.2ポイント下回っている。また、B問題では、説明を求められている問題での無回答率が高い。